

「諸君が見聞きしているとおり、あのパウロは『手で造ったものなど神ではない』と言って、エフェソばかりでなくアジア州のほとんど全地域で、多くの人を説き伏せ、改宗させている。これでは、我々の仕事の評判が悪くなってしまうおそれがあるだけでなく、偉大な女神アルテミスの神殿もないがしろにされ、アジア州全体、全世界があがめるこの女神のご威光さえも失われてしまうだろう。」（使徒 19:26 ~ 27）

「諸君がここに連れて来た者たちは、神殿を荒らしたのでも、我々の女神を冒瀆したのでもない。デメトリオとその仲間の職人が、誰かを訴え出たいのなら、裁判の日があるし、総督もおられるのだから、相手を訴え出なさい。それ以外のことで要求があるなら、正式な会議で解決してもらおうべきである。」（使徒 19:37 ~ 39）

パウロは、マケドニア州とアカイア州を巡ってからエルサレムに行き、その後、ローマを訪ねたいと思っていた。テモテとエラストとを先にマケドニア州に送り出し、自身はしばらく、アジア州のエフェソに留まっていた。その頃、ただならぬ騒動が起こった。

デメトリオと言う銀細工師が、アルテミス神殿の模型を銀で作し、職人たちに利益を得させていた。彼は、職人や同業者たちを集めて言った。神殿模型の仕事で我々はもうけているのだが、パウロは「手で造ったものなど神ではない」と言って、エフェソばかりでなくアジア州のほとんど全地域で、多くの人を説き伏せ、改宗させている。これでは、我々の仕事の評判が悪くなり、偉大な女神アルテミスの神殿もないがしろにされ、アジア州全体、全世界があがめるこの女神のご威光さえも失われてしまう、と。アルテミスはギリシアの女神で、アルテミス神殿は、その女神を祀る壮麗な大理石の神殿で、エフェソを中心にアジア州の人々の誇りであった。ところが、パウロの手で造ったものは神でないという宣教で、神殿の銀細工職人たちの儲けが減り、女神の御威光も失われていると危機を訴えた訳である。パウロの偶像を否定する宣教は、これほどのインパクトを与えた訳である。これを聞いた人々は腹を立て、「偉大なるかな、エフェソ人のアルテミス」と叫び、町中が混乱に陥った。パウロの同行者の二人を捕え、劇場になだれ込んだ。パウロは群衆の中に入って行こうとしたが、弟子たちが危険を察知して止めた。パウロの友人のアジア州の議員たちも、劇場に行かないように注意喚起した。群衆は騒ぎ、混乱するだけで、何のための騒動かも分からなくなった。ユダヤ人が押し出したアレクサンドロという人に話すように促したので、彼は手で制し、群衆に弁明しようとした。しかし、彼がユダヤ人であると分かると、群衆は「偉大なるかな、エフェソ人のアルテミス」と、2時間ほども叫び続けた。收拾がつかないほどの暴動になった。その時、町の書記官が群衆をなだめ、エフェソの町が偉大なアルテミスと天から降って来た御神体との守り役であることを知らない者はなく、否定することはできないのだから、冷静になり、決して無分別なことをしてはならないと諫めた。パウロたちは神殿を荒らしたのでもなく、女神を冒瀆したのでもない。訴えたいことがあれば、裁判の日もあるし、総督もおられるのだから、相手を訴え出て、正式な会議で解決すべきである。今日のような騒動は暴動の罪に問われる恐れがある。無秩序な集会は弁明する理由を持たない。書記官は混乱した集会を解散させた。

町の書記官は冷静に対応して騒動を収めたが、書記官もアジア州の議員たちも、パウロたちの宣教に好意的であったことを伝えている。